

FORUM

Vol.8

大阪府立大学
高等教育開発センターニュース
「フォーラム」

第 8 号

CONTENTS

- | | | |
|---|----------------------|---|
| ● | 巻頭言 | 2 |
| | 大阪府立大学理事(総務担当) 藤岡 巧一 | |
| ● | FDワークショップ報告 | 3 |
| | 授業アンケート報告 | 4 |
| ● | 近隣国公立大学FD実施状況調査報告 | 6 |
| | 編集後記 | 8 |



大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

巻頭言

● 大阪府立大学理事
(総務担当)

藤岡巧一

FUJIOKA KOUICHI

新たな創造のステージへ

■リニューアルされた公式H.P.

昨年12月に本学の公式ホームページが、リニューアルされました。関係スタッフの熱い思いと汗が凝縮された結果、さらに見やすく使い勝手の良いH.P.に生まれ変わったことは間違いありません。キャンパスプランの進捗状況なども、ご覧いただけます。

さて、このページをインターネットで開くと、まず「3枚のイチヨウの葉」が舞いながら本学のシンボルマークを形づくる動画が現れるのをご存知でしょうか？

よく見ると「3枚のイチヨウの葉」にはキーワードが書かれていて、最初に「強さ」「豊かさ」「優しさ」と、それが次に「知の創造」「知の継承」「知の活用」へと変化します。

■新たな創造のステージへ

平成17年4月に府立三大学が統合され、新生大阪府立大学としてスタートを切った本学では、今春、総合教育研究棟が、また来春にはサイエンス棟と先端バイオ棟が中百舌鳥キャンパスに立ち上がり、同じく来春、関西国際空港対岸のりんくうタウンには、獣医学舎が完成し、りんくうキャンパスがオープン等々、まさに「強さ・豊かさ・優しさが融合した大学」として「新たな創造のステージ」を迎えようとしています。

今秋を目途に進めている「公立大学法人・大阪府立大学の将来像の構築」も、そのステージへの大切

なプロセスでありツールのひとつと考えます。

■S.D.もF.D.の不可欠な要素

昨今、国公立・私立を問わず、大学の生き残りを賭けた競争が繰り広げられています。

本学が、大学に求められている「知の創造・継承・活用」という機能を、独自の魅力と存在感のある高度研究型大学として持続・発展的に担っていくためには、大学を運営するエネルギーの源たる人的資源、すなわち「学生・教員・職員」が各々の持てる力を最大限に発揮するとともに、三者の活動エネルギーのベクトルを本学の「新たな創造」に向けて一致・融合させることが極めて重要です。

私の立場からしますと、とりわけ「職員」（勤務形態に関わらず、委託業務に従事しているスタッフを含めて）の本学に対する思いと取組み姿勢の如何が気になるところであり、「S.D.（スタッフ・ディベロップメント：職員の能力開発）もF.D.の不可欠な要素」と捉えて追求するものであると考えています。

したがって、より良くより強い大学にするために「職員」一人ひとりの専門的能力を高めつつ、そのパワーを十分発揮してもらえるよう、日々の組織運営の中での風土づくりに意を配りながら、人材の育成・登用の仕組みや職場環境を整えていくことに力を尽したいと思います。

FDワークショップ報告

「GPA制度をどう活用していくか」というテーマで、今年度のワークショップは、平成19年9月21日午後1時から、学術交流会館多目的ホールで開かれた。全部局各学科からの参加で、35名の参加者であった。GPA制度について主催者側より説明したあと、「GPA制度のメリットとデメリットを踏まえたうえで、本学においてGPA制度を今後どのように運用していくべきか」というテーマについて、グループに分かれ、ディスカッションし、発表するというプログラムである。

このようなワークショップは、昨年度に引き続き2回目である。セミナーが講師の話聞く形式をとっているのに対して、ワークショップでは、参加者がテーマについて積極的に討議することになる。また、このようなワークショップにより、普段交流の少ない他部局の教員どうしが、知合い、意見交換できる機会を提供したいと主催するセンターとしては思っている。

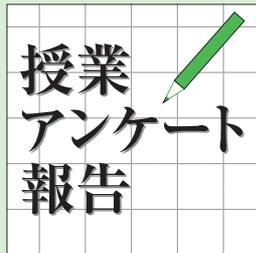
実施後のアンケートでは、実施形式等について、多くの厳しい提案がなされた。センターとしては、来年度のワークショップ実施については、これらの提案を踏まえて、充実したものにして行きたい。



アンケートの一部は次の通りである。「今まであまり詳しくは知らなかったが、問題点を大量に含む制度であることが分かった」「本学のGPA制度の現在の姿について良くわかったこと。他学部の考え方にふれられたこと」「他学部の教員と情報交換、意見交換できたことは良かった。ワークショップの進め方として、プレゼンテーション→質疑応答、という展開だったが、プレゼンの後各班で話し合わせて、そこでの意見、質問を出してもらう方が内容が豊かになるのではないか」「教育、研究、人材育成を円滑に行なうためにGPA制度はなくてもよい。他学部、他学科の教員との意見交換ができたのはよかった」「主催者の意見・主張等が聞けなかったのが残念である」「本日出された提言がどこかで実際に活かされるのでしょうか」

なお、GPA制度については、内容の実質的な周知が不十分であり、同時に、その運用についても多くの教員が戸惑いをもっていることが分かった。そのような問題意識のもと、当センターとしては、第2回FDセミナーのテーマとして、GPA制度を取り上げることとなった。

(高根)



—実施概要と 試行的分析ハイライト—

先般実施されました2007年度前期授業アンケートについてご報告いたします。今回は下記の要領で実施されました。

実施方法: 原則として学生ポータルを通じてWeb上で実施

※経済学部の一部の科目では紙ベースで実施

対象科目: 平成19年度前期開講科目

※新カリキュラム(1~3年生)科目は全ての科目が対象。旧カリキュラム(4年生)の科目は各学部(研究科)が指定した科目。

回答期間: 平成19年6月4日(月)~8月9日(木)

※ただし集中講義の科目については別途設定。

※期間中に中間結果をポータル上に公開するとともに、自由記述を各科目担当の教員にフィードバックする。

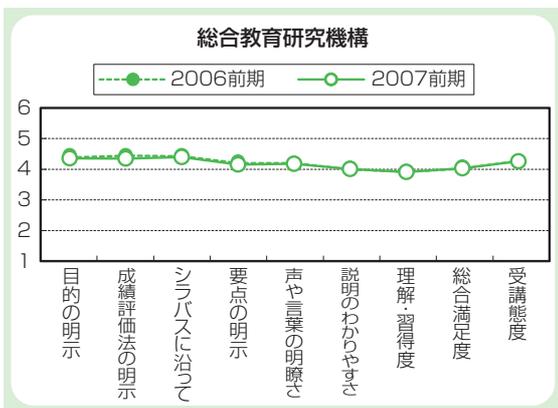
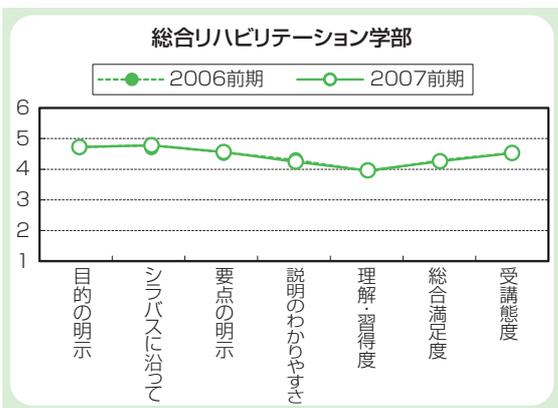
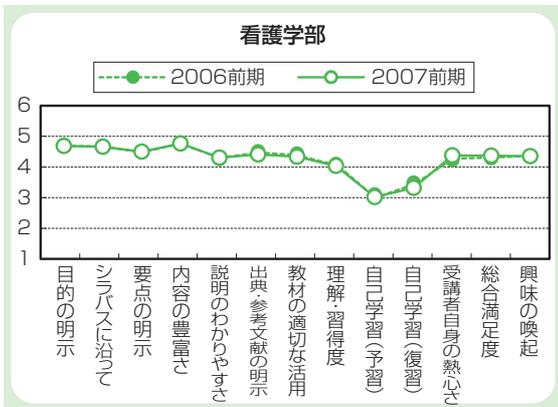
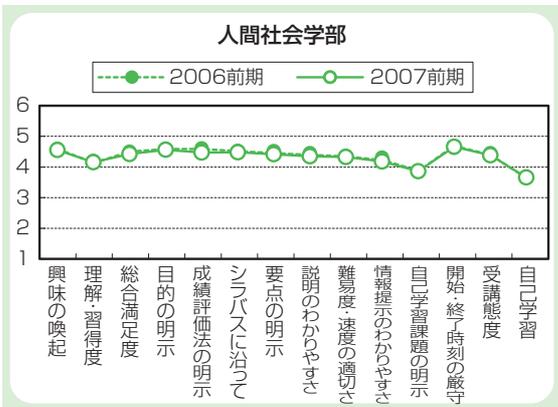
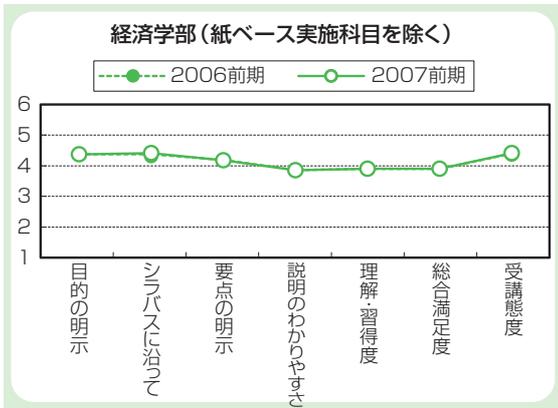
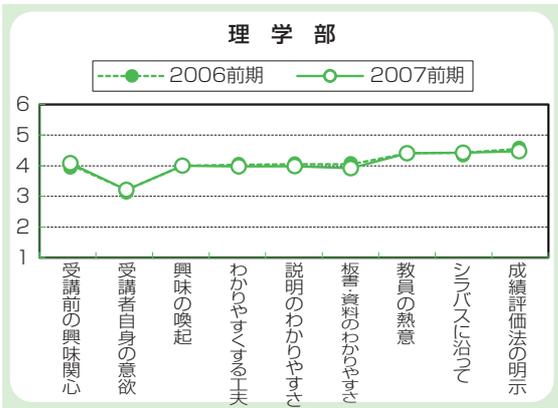
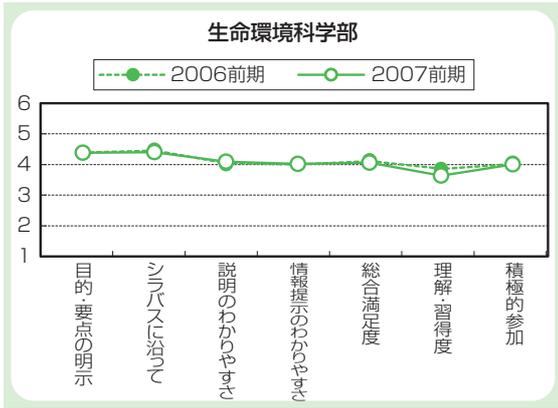
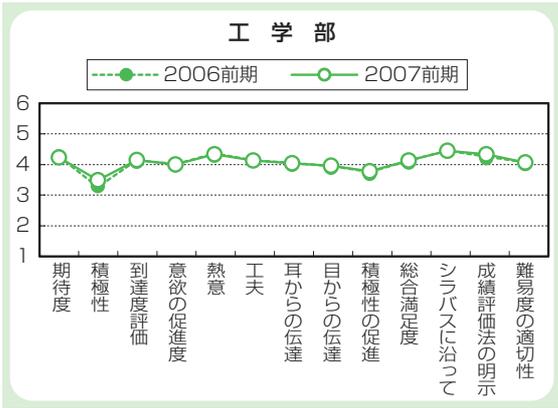
次に、全体と部局別の対象科目数・回答(延べ回答者数)の学年別構成比・回答率は表1の通りです。本来4年生以上が存在しないはずの理学部・人間社会学部に該当があるのは、表中の学部名が学生の所属ではなくアンケート対象科目の開設部局を表すためです。今回は1・2年次に加え3年次配当の全科目も対象となったため、学年別構成比は全体では学年が1>2>3の順に多いものの、部局によっては3年生が最多となっております。一方、部局別ではこれまで同様、総合教育研究機構の科目および回答が多くなりました。また、回答率は前回(2006年度後期)は全体で2割を切りましたが、今回は20%台に回復しました。ただ、依然として低調に変わりはありません。紙ベース実施に切り替えてはどうかとのご意見もいただいておりますが、そのためには解決すべき問題も多く、教育改革専門委員会および高等教育開発センターで慎重に検討しております。

■表1 科目数・回答の学年別構成比・回答率

	科目数	1年生	2年生	3年生	4年生以上	回答率
全体	1,062	43.0	33.4	21.3	2.3	22.8
工	182	15.7	54.3	27.0	3.0	17.0
生命環境	105	16.9	38.6	37.9	6.6	12.7
理	82	5.0	45.8	47.7	1.6	28.3
経済*	75	39.7	35.5	18.4	6.5	14.3
人間社会	178	30.7	44.0	23.7	1.5	17.8
看護	29	35.4	14.8	47.9	2.0	35.2
総リハ	59	42.9	20.5	32.8	3.8	42.8
機構	352	81.2	16.1	2.5	0.1	27.8

※ 単位:%(科目数を除く)

* 学年別構成比・回答率は紙ベース実施科目を除く





さて、前期の授業アンケートは2006年度に続き今回が2度目になります。2006年度前期の必須対象は1・2年生科目だけでしたが、今回のデータから1・2年生回答結果を抽出することで比較ができます。もちろん、回答している学生も回答率も異なりますので厳密な比較にはなりません。学生から見て授業が改善されているかどうかのおおよその目安にはなるでしょう。前頁に、部局別に平均値の年度比較結果を示しました（出席の度合の自己申告等、明らかに間隔尺度と見なせない項目は省略）。部局・項目によって差の出方に若干の違いはありますが、概して2006年度前期と2007年度前期で大きな変動はないようです。（保田）

近隣国公立大学FD実施状況調査報告

高等教育開発センターでは、今後FDをさらに展開していく指針を模索するため、近隣国公立大学に教育改善事業の調査を実施しました。調査は昨年12月に郵送法にて実施し、対象15大学のうち10大学（京都大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、神戸大学、兵庫教育大学、奈良女子大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、神戸市外国語大学）から回答を得ました。以下、文部科学省の全国調査の結果（「大学における教育内容等の改革状況について」http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/04/07041710.htm）と併せて、集計結果をご紹介します。

GPA・CAPの全学導入

GPAを導入している大学は、全国では平成17年度時点で国立37校（42.5%）、公立19校（22.1%）、私立192校（34.7%）です。調査対象では10大学中2大学が平成15年度から全学で実施

しており、残る8大学のうち1大学が実施予定あり（時期未定）、7大学が予定なしでした。

またCAP制については、全国で平成17年度時点で導入している大学は国立59校（67.8%）、公立27校（31.4%）、私立347校（62.7%）です。調査対象では10大学中1大学が平成13年度から、4大学が平成15年度から全学で実施しており、残る5大学は全て実施予定なしでした。

全学的な授業アンケート制度

授業アンケート（授業評価）を実施している大学は、全国では平成17年度時点で国立58校（66.7%）、公立49校（57.0%）、私立401校（72.5%）です。調査対象では10大学中7大学が平成17年度以前から、1大学が平成18年度後期から全学で実施しており、残る2大学は実施予定あり・なしそれぞれ1大学でした。

また授業アンケートの実施時期については、文

部科学省データには該当項目がありませんが、調査対象では実施していると回答した8大学のうち5大学が「学期(開講期)の終了時(最終回の授業など)」、2大学が「学期(開講期)の途中に実施して結果を教員にフィードバックし、残りの授業に反映させられるようにしている」、1大学がWebで開講期間の終盤からでした。

参加型の教員FD研修

参加型の教員FD研修の実施状況については文部科学省データに該当項目がありませんが、調査対象では10大学中2大学が平成18年度またはそれ以前から全学で実施しており、残る8大学のうち3大学が実施予定あり、4大学が予定なし、1大学が無回答でした。

ピア授業参観制度

ピア授業参観制度を導入している大学は、全国で平成17年度段階で国立57校(65.5%)、公立16校(18.6%)、私立156校(28.2%)です。調査対象では10大学中5大学が全学で導入しており、残る5大学のうち3大学が実施予定あり、2大学が予定なしでした。

各学部(部局・学科)のFDに関する調査

各学部(部局・学科)のFDに関する調査(本学では先般高等教育開発センターが実施した「FDヒアリング」が該当します)については文部科学省データに該当項目がありませんが、調査対象では10大学中1大学が口頭・書面の両方、1大学が口頭で、2大学が書面で実施しており、残る6大学のうち1大学が実施予定あり、4大学が予定なし、1大学が無回答でした。

そ の 他

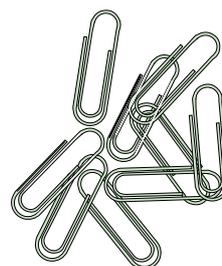
上記の他、全学的なFDの取組として次のような回答(自由記述)がありました。

- ・大学院生を対象とした面接調査(今年度より実施)。授業、カリキュラム等に関する意見を、各学科等の代表の学生に面接形式で聞いている。
- ・FD研修会。18年度は外部講師による講演、今年度は学内教員6名による講演(テーマ:「私の授業の工夫について」)を行っている。
- ・19年度は全学の助教を対象とした「全学FD研修会」を春と秋(いずれか1回参加)に実施した。
- ・大学院生のための教育実践講座(プレFD)

ま と め

今回の調査で質問した項目は全て大阪府立大学で既に実施されているFDの取組です。個別の取組については、近隣の国公立大学の範囲でも大阪府立大学よりも早い時期に導入している大学もありますが、大学ごとに見ると、質問した全ての項目(取組)を行っている大学はありませんでした。それゆえ、少なくとも関西の国公立大学の中では、大阪府立大学はFDに関して最も積極的な大学の一つといえます。

(保田)



編集後記

高等教育開発センターより『FORUM』第8号をお届けします。ページ数が少なく、地味な印象があるかもしれませんが、全学の先生方と当センターとの間のコミュニケーションを少しでも深めたいという願いをこめて、編集させていただいております。ご意見やご感想などお聞かせいただくと幸いです。

大学の教育力を組織的に高めるための取り組みであるFDは、いまや義務化の時代を迎えることになりましたが、まだまだFDというものに積極的になれない先生も少なからずいらっしゃるようです。「新卒の管理ですか？」と訊かれたこともあります。しかし、「FDセミナー」の講演を聴いたり、「ピア授業参観」でアドバイスをもらったり、あるいはまた「FDワークショップ」などで他学部の先生と議論をすることによって、思いがけない発見があるもので、個々人のそうした経験が自発的な教育改善につながるものだろうと思います。まだセミナーに参加されたことのない先生もぜひ一度参加されることをお勧めいたします。

(谷口)

大阪府立大学 高等教育開発センター センターニュース『FORUM』

平成20年2月15日発行

発行者 公立大学法人 大阪府立大学
総合教育研究機構 高等教育開発センター
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
<http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/>

印刷所 くすの木印刷
〒586-0081 大阪府河内長野市緑ヶ丘北町25-21

〈編集委員〉 木松 弘一 高根 雅啓 高橋 哲也(主任) 谷口 栄一 星野 聡孝 保田 卓(副主任) 藤澤 圭子・本吉 紀子(事務担当)

この冊子は1500冊作成し、1冊あたり48円です。